



石炭から雑貨の港へ 体質改善急ぐ留萌港

港の背後に、広い経済圏を持ち、さらに道中新産業都市建設の、海の玄関口として、大きな役割をこなす留萌港は、急激に道開発の先達としてスポットを浴び、その整備の重要性を中央でも認められてきました。

このため、留萌港の拡充整備を進めようとして、大手のメスを入れています。石炭から雑貨の港へ、これが、いま進められている留萌港体質改善の具体的な内容です。

ながる衛星都市建設と、具体的にはこれら陽のあたらないかたがたに急激にその手をのべてくることとなりま

やがて、この地域全体が豊かな北海道の象徴となることも、そう遠い夢ではな

留萌港の経済性

留萌港は、函館、室蘭、小樽、釧路、稚内などとも、道内重要港湾に指定されていること、は、ごぞんじの通りです。

この留萌港は、道の上川留萌地区工業地帯調査報告書によっても全道面積の四分の一、その人口でも、約三〇%を占める広い経済圏を持つということがはつきりしています

それに、この港のヒンタランドは、ただ広くて、人の数が多いというだけではありません。

と、留萌港のヒンタランドには、工業の振興に生命をかけた、一路百万都市をめざす旭川地区があり、さらに、東洋高圧を持



留萌丸、羽幌丸、天塩丸などもまじつて、にぎわう留萌港

港湾整備八カ年計画

最近、留萌港の扱い荷物の量が非常に多くなり、その増加率は、全道にある重要港湾六港のうち、一番です

このため、いまの留萌港では、すでに、その施設の大きさがらいつても、設もこれ以上の荷物をさばくことは、非常にめんどうになつてきました。

もともと、留萌港は、作られた当時、石炭、木材の積出し港として作られた

道北地方の開発の遅れをとりもどすには、まずなるといつても、留萌港をいままでのように、石炭や木材だけを積出していただけでなく、道北地方に必要な雑貨の陸揚げや、道北地方で今後生産が予想されるものを含めた加工生産物を積出せるだけの、りっぱな港にしなければならぬという結論になりました。

こうして、いままで進めてきた港湾整備計画を、次の点を重点にしたものに改めました。

その整備の目標を、昭和四十年(前期計画の終年)の貨物取扱量を、二百六十万トン(昭和四十五年(後期計画の終年)の貨物取扱量を、三百六十万トン)と、最終的に将来を考えた計画として五百万



放射状に広がる道路をきょうも貨物は留萌港へ

南防波堤を、いまよりも三メートル高くコンクリートを積み上げて防波堤をこえた荒波によつて、外港に船が停泊しても、危険がないように、波を防ぐとともに、さらに防波堤の先を百五十メートル延長する。

留萌港開発会社設立

しかし、これらの数多い工事も、国費による整備を最大限に期待して、最近の急激な経済成長には、間にあいません。

このようなとき、旭川、芦別、留萌など九市一町に

将来の躍進を約束

こうした港湾施設の整備は、留萌港を中心とした交通網の整備とともに、新しい時代への脱皮が約束される

名羽線、芦深線の鉄道新設、それに旭川、留萌を結ぶ高速度道路の建設計画などの広大なヒンタランドとの経済性をさらに深め、貿易自由化促進は運賃コストの低減をはかるため、荷主はいや応なしに留萌港を利用する態勢になつてきているし、また国家的にも利益となるので、こうしたことは留萌港の躍動と道北地方の開発に、大きな曙光を浴びることになるでしょう。



掘さく続く留萌北岸船だまりも、やがては木材専用岸壁となる

トンの処理できる港にすることにいたしました。これにもなる整備は、

■南岸壁の整備
道北開発にとり、生活必需品、工業原料及び生産品の移輸入できるものにする。

■外港の活用
増大する船舶の収容と、石炭及び雑貨埠頭を作る

■石炭積込み施設の増強
北空知炭の留萌港積出しに備える。

■石油保安地帯の造成
あらたに、臨港地帯に設ける。

という点を、太い骨組みにした留萌港整備拡充の八カ年計画(三十七、四十五年)をたてたのです。

この計画は、すでに、市議会議員や市内学識経験者に委嘱している留萌港審議会の賛同を得て、政府に提出し、その年次別予算化を要請中です。

整備拡充は、昭和三十

年、四十一年までの前期と、四十一年、四十五年までの後期にわけて、多くの工事が行われますが、おもな点は、次のようなものです。

■前期計画
商港としての施設を充実するため、南岸壁を十メートルをつき出した延長三百七十五メートルの雑貨岸壁を作り、五千トン級の商船が、同時に三隻も横づけできるものにするともに、南岸壁道路の舗装、さらに上屋物揚場の建設をし、

また、木材の積みおろしには、北岸船だまりの岸壁を一部手なおしして、貨物船の接岸ができるようにし、木材岸壁とする。

漁船については、市漁業協同組合付近の岸壁がこわれているので、なおして漁船専用の岸壁にする。

新産業都市建設をめぐって現在中央に名のりをあげている都市は、全部で五十三地区もありますが、そのうち九割の五十地区が港湾をもつ所か、または港湾に近い距離の都市で、いかに今後は工業と港湾とのつながりが深いものであるか知ることができるといいます

このため、市では、港の整備には、国だけに依存してはならないと、「留萌港開発株式会社」を作り港の施設整備にのり出しました。



留萌港経済圏各都市との会議も開かれ、協調を約束。岸壁利用経済会議

また、木材の積みおろしには、北岸船だまりの岸壁を一部手なおしして、貨物船の接岸ができるようにし、木材岸壁とする。

漁船については、市漁業協同組合付近の岸壁がこわれているので、なおして漁船専用の岸壁にする。

後期計画

また、木材の積みおろしには、北岸船だまりの岸壁を一部手なおしして、貨物船の接岸ができるようにし、木材岸壁とする。

雑貨岸壁は、毎月貨物の積みおろしてにぎわう

